

壁突破プロジェクト

# 多文化共生チーム 最終報告



# 目次

- 1 提案の背景と事業の目的**
- 2 現状分析**
- 3 課題考察**
- 4 施策提案**
- 5 まとめ**

多文化共生PT

---

# 1 提案の背景と事業の目的

## 今治市を取り巻く現状と課題

### 外国人住民の増加



外国人住民数  
4,604人

(令和7年12月末現在)

造船業・介護分野での  
労働者の受け入れ需要増



### 受け入れ側の課題

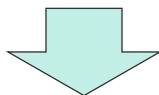
地域住民の不安解消

企業や関係団体との連携

「育成就労」制度の開始  
(令和9年4月施行)



都市インフラとしての受け入れ環境整備が急務



**外国人住民と地域住民の相互の信頼関係の構築**

多文化共生PT

---

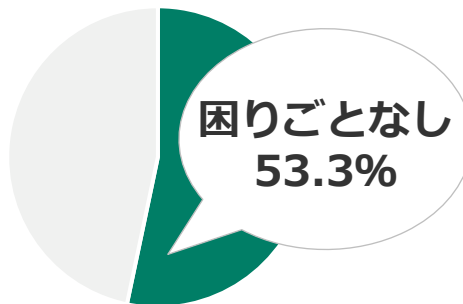
## 2 現状分析

### 課題A 潜在化する「困りごと」と言語・情報格差

日本語理解度



困りごと

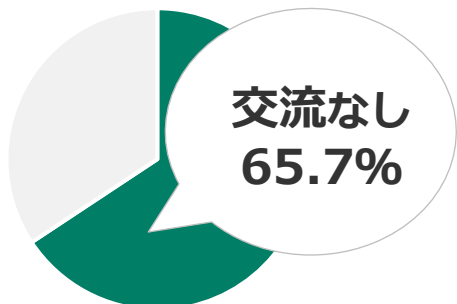


ほしい情報

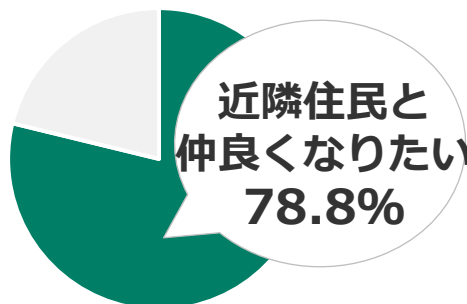


### 課題B 高い交流意欲と実際の行動のギャップ

交流状況



交流意欲



やりたいこと



【出典】今治市在住外国人アンケート（今治市市民参画課 多文化・共生社会推進室実施）  
実施期間：令和7年8月  
対象：抽出条件にすべて適合する外国人住民約4,000名  
回答率：25.1%（回答のあった外国人住民861名）

多文化共生PT

---

## **3 課題考察**

## ☆PTで行った取組

① **インタビュー** (今治市国際交流協会)



② **先進地視察** (岡山県総社市)



③ **日本人向けアンケート**の実施

④ **専門家評価** (愛媛大学)

※ 4 施策提案にて説明



# ①インタビュー（今治市国際交流協会）

日時：令和7年12月25日（木） 10時～11時

訪問先：今治市国際交流協会（第3別館1階）



今治市国際交流協会 担当者

## 主な取組と課題

交流会・英会話教室の開催

⇒交流のニーズの高さ

ボランティア人材の育成

⇒ボランティアの高齢化に伴う世代間ギャップの発生



## ② 先進地視察（岡山県総社市）

日時：令和8年1月14日（水） 13時～14時

視察先：岡山県総社市役所（人権・まちづくり課）



人権・まちづくり課 担当職員



## 外国人集住都市会議

- ・ 首長会議の開催
- ・ 国への提言

## 外国人職員採用

- ・ 三者通訳による信頼
- ・ 顔の見える安心感

## ワンストップ窓口



## 総社市の取組

「怖い・難しい」から「気軽に相談できる場所」へ

## 情報格差の是正

- ・ 広報の多言語化
- ・ やさしい日本語



## 地域との連携

## 市長との座談会

### ③日本人向けアンケートの実施

#### 今治市多文化共生に関する意識調査

○調査の目的

：外国人住民との共生について、市民（日本人）がどのような「本音」を持っているかを把握し、実効性のある多文化共生施策の優先順位を特定するため。

○実施期間：令和8年1月5日（月）～1月16日（金）

○対象：今治市にお住まいの16歳以上の方

○告知方法：SNS（今治市公式LINE）

○有効回答数：222件



## アンケート結果（住民を心理的傾向に基づき4つに分類）



**未来投資・教育期待型**  
(若年・子育て層)

**グローバル教育期待**

+

国際感覚への期待

-

治安・教育への影響

**公助重視・サポーター型**  
(30~50代中堅層)



**行政バックアップ前提**

+

行政主導への信頼

-

個人の負担増



**地域貢献積極型**  
(60代以上の高齢層)

**ルール伝承・お世話役**

+

高い地域愛・教えた

-

ルール逸脱への懸念

**安定志向型**  
(現役・慎重層)



**現状維持・平穏第一**

+

現状の平穏（維持）

-

変化による心理的摩擦

## 結果から見えた課題（外国人アンケートとのクロス分析）



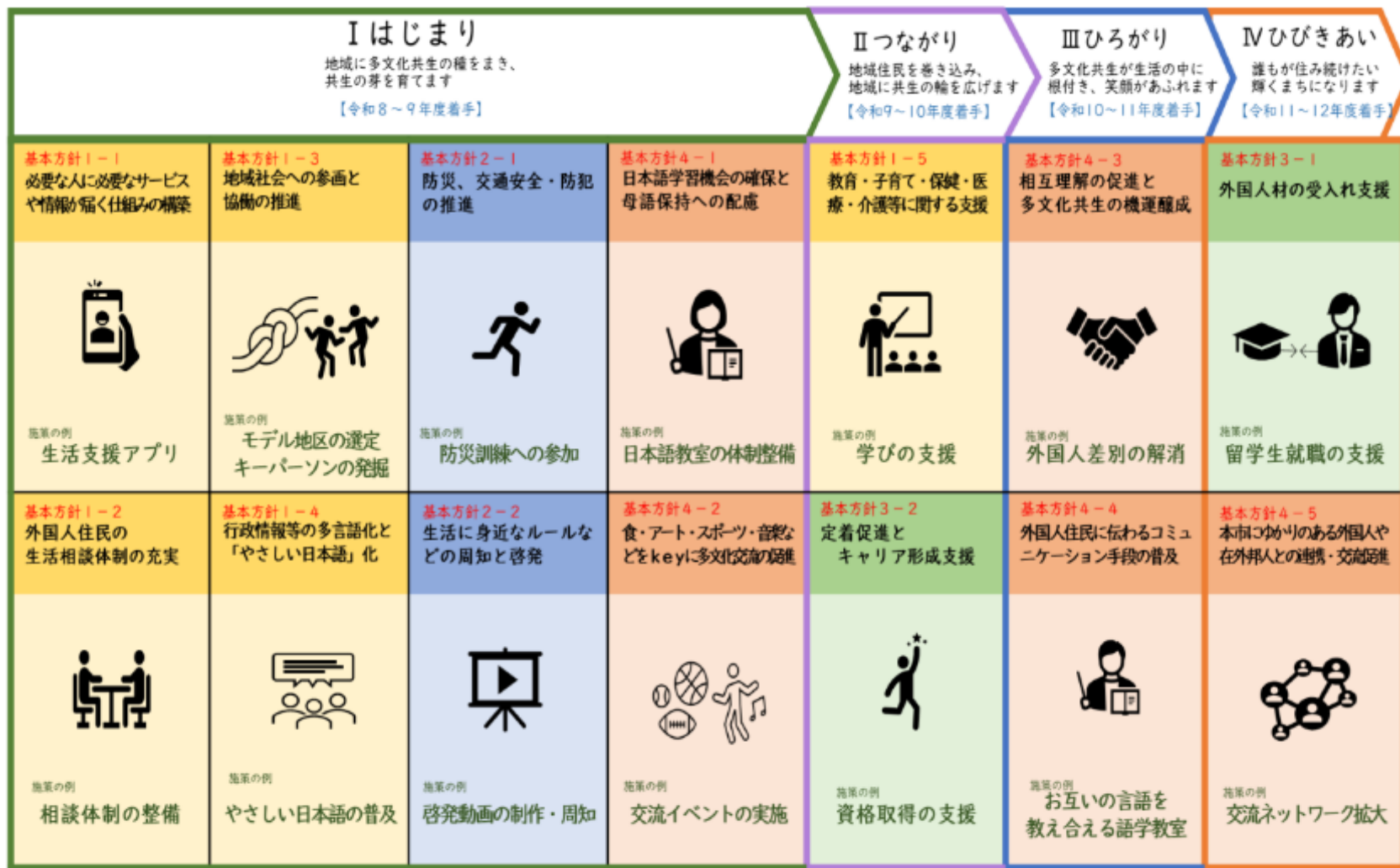
生活環境の整備を「基礎」とし、「結果」として交流が生まれる  
施策提案が必要なのではないか？

多文化共生PT

---

## 4 施策提案（今治市の目指すべき姿）

## 「今治市多文化共生推進プラン（案）」施策ロードマップ



【出典】今治市多文化共生推進プラン（案）  
（今治市市民参画課 多文化・共生社会推進室 公表）  
令和8年2月10日時点

## ☆ 推進プランに+aの提案

① 外国人集住都市会議への加入

② 外国人職員の採用

③ 生活ガイドブックの作成



## I はじまり

地域に多文化共生の種をまき、  
共生の芽を育てます

【令和8～9年度着目】

## II つながり

## III ひろがり

## IV ひびきあい

基本方針1-1  
必要な人に必要なサービス  
や情報が届く仕組みの構築



施策の例  
生活支援アプリ

基本方針1-3  
地域社会への参画と  
協働の推進



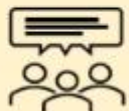
施策の例  
モデル地区の選定  
キーパーソンの発掘

基本方針1-2  
外国人住民の  
生活相談体制の充実



施策の例  
相談体制の整備

基本方針1-4  
行政情報等の多言語化と  
「やさしい日本語」化



施策の例  
やさしい日本語の普及

施策の例  
啓発動画の制作・周知

施策の例  
交流イベントの実施

施策の例  
資格取得の支援

施策の例  
お互いの言語を  
教え合える語学教室

施策の例  
交流ネットワーク拡大

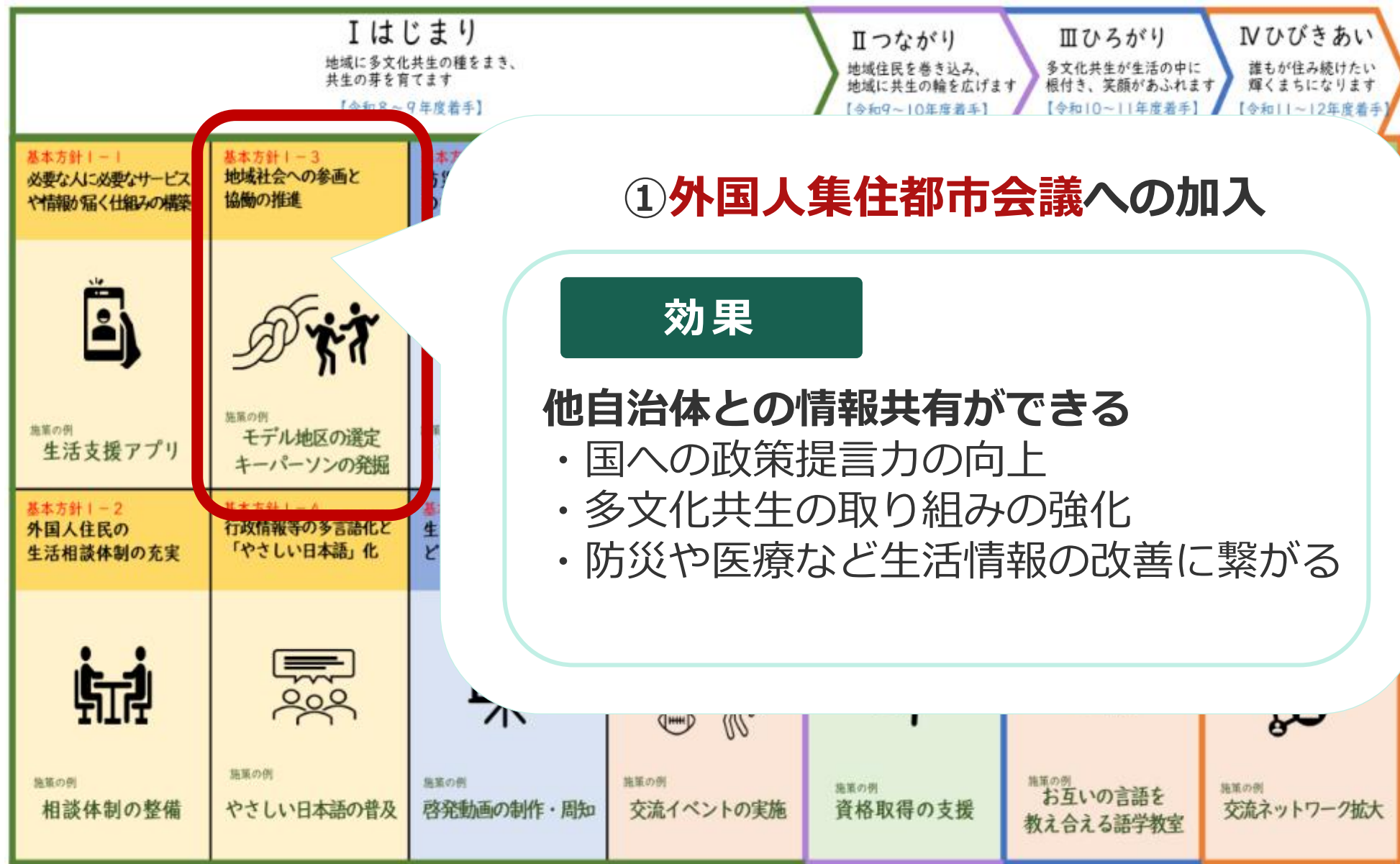
### ①外国人集住都市会議への加入

#### 外国人集住都市会議とは

外国人住民が比較的多く住む自治体が、  
共通する課題に連携して取り組むため  
に設立された都市ネットワーク

加入している自治体の多くは東海地方  
中国地方では岡山県総社市のみ  
四国・九州地方ではなし

(令和8年2月時点)



### ①外国人集住都市会議への加入

#### 効果

他自治体との情報共有ができる

- ・ 国への政策提言力の向上
- ・ 多文化共生の取り組みの強化
- ・ 防災や医療など生活情報の改善に繋がる

## ②外国人職員の採用

### 現状

- ・ 翻訳アプリの使用
- ・ 所属企業や団体職員による通訳

### 課題

- ・ 細かいニュアンスが伝わらない
- ・ 誤解が生まれることも

### 効果

- ・ 母国語で相談できる安心感
- ・ 信頼関係の強化

誰もが相談しやすい市役所づくりへの一歩

基本方針1-1  
必要な人に必要なサービス  
や情報が届く仕組みの構築



施策の例  
生活支援アプリ

基本方針1-1  
地域社会への  
協働の推進



施策の例  
モデル地  
キーパー

基本方針1-2  
外国人住民の  
生活相談体制の充実



施策の例  
相談体制の整備

基本方針1-1  
行政情報等  
「やさし

施策の例  
やさしい日本語の

## ③生活ガイドブックの作成 通称：BARIバリューBOOK ～外国人住民と地域が共につくるやさしい生活ガイド～

### BARIバリューBOOKとは・・・

- ・ 共通の価値観・行動指針を共有
- ・ 地域に合わせて育てる共創型BOOK

### 特徴

- ・ 空欄や余白をつくり書き込める
- ・ ボランティア（高齢者・大学生など）と  
共作

基本方針！ー！  
必要な人に必要なサービス  
や情報が届く仕組みの構築



施策の例  
生活支援アプリ

外国人住民の  
生活相談体制の充実



施策の例  
相談体制の整備

基本方針！  
地域

施策の例  
モデル  
キーパ

基本方針！  
行政情報  
「やさしい

施策の例  
やさしい日本語の

教える百人の語り教室

ネットワーク拡大

## ③生活ガイドブックの作成 通称：BARIバリューBOOK ～外国人住民と地域が共につくるやさしい生活ガイド～

### 内容

生活情報

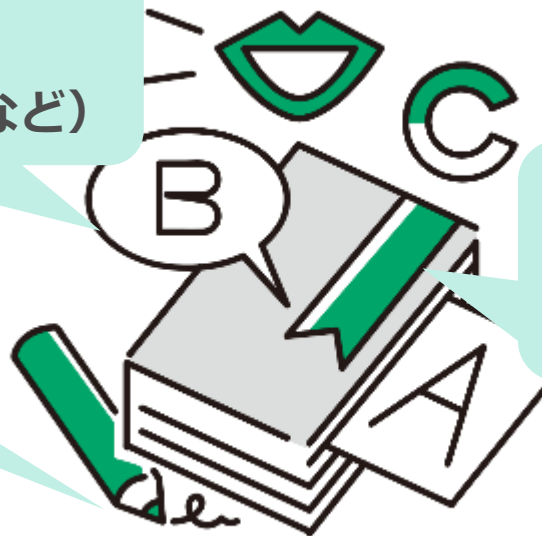
(防災・病院・ゴミ分別など)

メモ書き欄

(居住地区の独自情報)

コラム欄 (文化理解)

Ex.各国のごみ処理事情、外国人住民インタビュー、今治市のごみ処理事情



## ③生活ガイドブックの作成

### 通称：BARIバリューBOOK

～外国人住民と地域が共につくるやさしい生活ガイド～

#### 外国人住民への効果

- ① 日本の生活に安心してなじむことができる  
自分で書き込みながら覚えられるため、学びやすい。
- ② 地域の人と話しやすくなる  
ボランティアや地域住民と一緒に書き込むことで、自然に会話が生まれる。「質問しても大丈夫」「理解しようとしてくれる」という安心感が高まる。
- ③ 地域社会の一員として認められる体験になる  
「受け身」ではなく「参加している」という実感を得られる。自分の文化も共有しやすくなり、相互理解が深まる。

基本方針！  
必要な人に必要なサービス  
や情報が届く仕組みの構築



施策の例  
生活支援アプリ

外国人住民の  
生活相談体制の充実



施策の例  
相談体制の整備

## ③生活ガイドブックの作成

### 通称：BARIバリューBOOK

～外国人住民と地域が共につくるやさしい生活ガイド～

#### 地域住民への効果

- ① 外国人住民とのすれ違いや誤解が減る  
情報が可視化されるため不安が軽減される。
- ② 外国人住民への対応がしやすくなる  
“地域ならではの”情報を共有できるため、案内がスムーズ。  
ボランティアや自治会が指導・相談対応をしやすくなる。
- ③ “地域の一員”として受け入れやすくなる  
外国人住民が自ら書き込んだ情報を見ることで、努力が見え、信頼が深まりやすい。「よくわからない人」から「一緒に地域をつくる仲間」へとイメージが変わる。

基本方針1-1  
必要な人に必要なサービス  
や情報が届く仕組みの構築



施策の例  
生活支援アプリ

外国人住民の  
生活相談体制の充実



施策の例  
相談体制の整備

基本方針1-1

地域社会

施策の例  
モデル地  
キーパー

基本方針1-1  
行政情報等  
「やさしい

施策の例

やさしい日本語の普及

教える百人の語り教室

パーク拡大

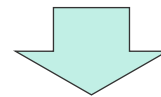
## ③生活ガイドブックの作成

### 通称：BARIバリューBOOK

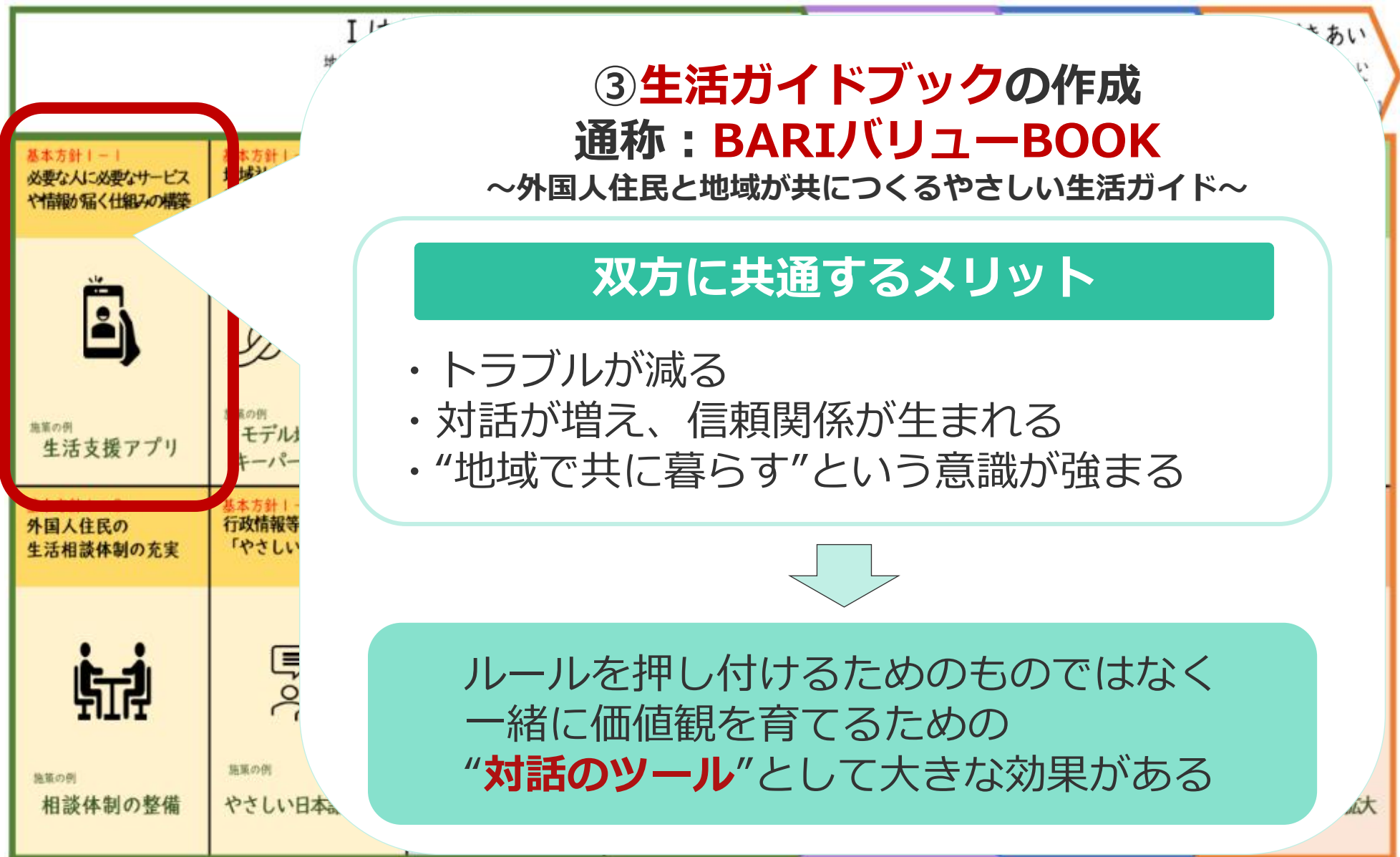
～外国人住民と地域が共につくるやさしい生活ガイド～

#### 双方に共通するメリット

- ・トラブルが減る
- ・対話が増え、信頼関係が生まれる
- ・“地域で共に暮らす”という意識が強まる



ルールを押し付けるためのものではなく  
一緒に価値観を育てるための  
“対話のツール”として大きな効果がある



## ☆PTで行った取組

①インタビュー（今治市国際交流協会）



②先進地視察（岡山県総社市）



③日本人向けアンケートの実施

④**専門家評価**（愛媛大学）



## ④ 専門家評価 (愛媛大学)

日時：令和8年1月29日(木) 11時～12時

訪問先：愛媛大学城北キャンパス



### 協議内容

最終報告資料について専門的  
見地からの評価・アドバイス

SDGs及び国連人間居住計画  
(UN-Habitat) と照らし合わ  
せた評価の実施



## SDGs

11 住み続けられる  
まちづくりを



16 平和と公正を  
すべての人に



17 パートナーシップで  
目標を達成しよう

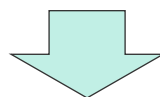


## 国連人間居住計画

### UN-HABITAT

#### 都市の包摂力の観点

誰もが基本サービスへ実質的にアクセスでき、信頼できるガバナンスがあり、社会的につながりが生まれる設計



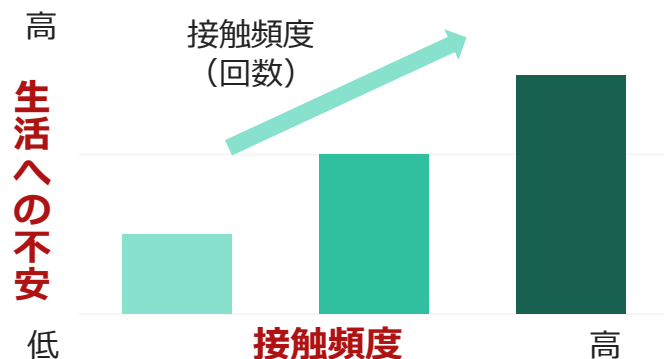
「『インクルーシブな社会』を実現するために有効な施策である」  
との助言を得た

## 本PT提案の施策実施に伴う予測（SDGsの観点から）

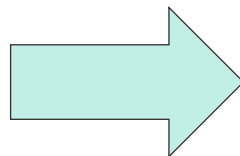
### 【現状】

単なる「接触頻度」の増加は、  
かえって**不安**を増幅させる

言葉が通じない、ルール違反が目につく



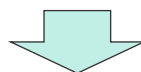
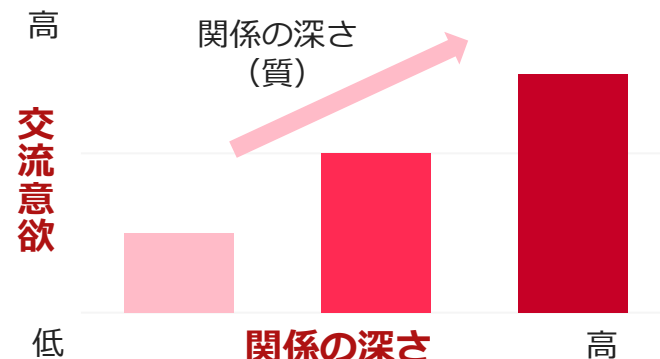
「顔の見える」  
関係へ



### 【目指す姿】

「関係の深さ」が伴えば、  
不安は**信頼**へと変わる

相手の事情が分かると、互いに協力できる



共同作業を通じた「生活ガイドブックの作成」など質の高い交流の仕掛けの重要性

## 本PT提案の施策実施に伴う予測（国連指標の観点から）



到達・理解・利用

効果

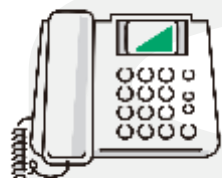
多言語情報の閲覧数  
窓口の問題解決率

相談のしやすさ  
= 信頼



効果

相談件数の増加  
(潜在課題の顕在化)



生活摩擦の低減

効果

ごみ・騒音等の「誤解由来」の  
苦情件数減少

社会的つながり



効果

生活ガイドブック共創参加人数  
サポーター・ボランティア登録数

多文化共生PT

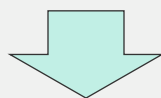
---

## 5 まとめ





**外国人居住者を含めた地域住民が心通わせる  
「誰もが暮らしやすい今治」の創出**



**瀬戸内の世界都市として誰もが住み続けたい輝く街に！**





**ご清聴ありがとうございました**



# 參考資料

## 今治市多文化共生に関する意識調査 結果（抜粋）

Q お子さんが通う学校や地域に、様々な国や文化背景を持つ人が増えることについて、どのように感じますか。

回答	人数	割合(%)
3 (無回答/対象外)	161	72.5
子どもにとって良い経験になると思う	17	7.7
どちらかといえば良いことだと思う	17	7.7
言葉や習慣の違いによるトラブルなどが心配だ	13	5.9
教育環境への影響など、不安の方が大きい	9	4.1
判断がつかない/わからない	5	2.3

Q 今後、お子さんに学校などで「多文化共生」や「国際理解」について学んでほしいと思いますか。

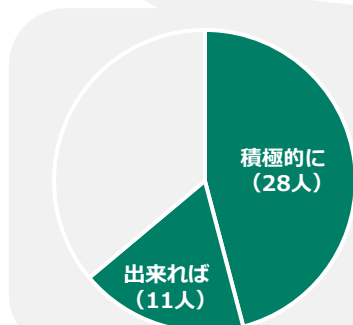
回答	人数	割合(%)
3 (無回答/対象外)	161	72.5
積極的に学んでほしい	28	12.6
どちらともいえない	17	7.7
できれば学んでほしい	11	5.0
あまり学んでほしくない	5	2.3

Q あなたの近所（普段の生活圏）で、外国人住民を見かけたり、接したりすることはありますか。

回答	人数	割合(%)
時々ある(見かける程度)	126	56.8
ほとんどない	45	20.3
よくある(会話や交流がある)	40	18.0
全くない	11	5.0

Q 現在のお住まいの地域の状況について、あなたの実感に最も近いものをお選びください。

回答	人数	割合(%)
特に大きな変化はなく、平穏である	119	53.6
今の地域の仕組みのままでは、外国人住民の増加に対応するのは難しいと感じている	44	19.8
生活習慣や言葉の違いに対し、地域住民の中に「戸惑い」や「不安」が見られる	27	12.2
わからない	22	9.9
地域全体で新しい住民(外国人含む)を歓迎する準備ができていていると感じる	10	4.5



※分母を全回答者 (N=222) から、子育て対象者 (n=61) に変更して再計算

約64% (39人) がポジティブ層  
★子育て当事者の約6割以上が多文化教育に肯定的な意見を持っている

【出典】今治市多文化共生に関する意識調査（多文化共生PT実施）  
実施期間：令和8年1月  
対象：今治市にお住まいの16歳以上の方  
有効回答数：222件

## 今治市多文化共生に関する意識調査 結果（抜粋）

Q あなたがお住まいの地域で、住民同士が円滑に暮らすために「最も重要」だと思うことは何ですか。

回答	人数	割合(%)
ゴミ出しや騒音など、地域のルールやマナーを守ること	90	40.5
日常的な挨拶や声かけをすること	55	24.8
困ったときはお互いに助け合うこと	36	16.2
お互いの文化や背景を知り、違いを認め合うこと	29	13.1
特にない/わからない	7	3.2
その他	5	2.3

Q 今後、外国人住民が増えていく中で、行政サービスのあり方についてどのお考えに近いですか。

回答	人数	割合(%)
まずは外国人住民自身が努力して、日本の言葉やルールを習得することを原則としたほうがよい	106	47.7
安全・安心のために、行政がコスト(税金)をかけてでも多言語対応などを充実させるほうがよい	50	22.5
行政のサポートも必要だが、基本的には地域住民やボランティアの協力で補うほうがよい	40	18.0
どちらともいえない/わからない	26	11.7

Q 地域で多文化共生を進めるにあたり、行政が「優先的に対策すべき」だと感じる課題は何ですか（複数回答可）。

項目	回答数	割合(%)
ゴミ出しや生活騒音などのマナー・ルールの周知不足	115	51.8
地域のつながりの希薄化や治安面で安心して暮らせるかどうかの不安	76	34.2
交流イベントなど、お互いを知る機会の不足	60	27.0
災害時や緊急時の情報伝達(多言語化)の不安	51	23.0
日本語を学ぶ機会の不足(教室の開催など)	41	18.5
その他	10	4.5
わからない	8	3.6
特に課題はない	1	0.5

Q あなたの住む地域で外国人住民との交流イベントや地域活動が行われる場合、参加してみたいと思いますか。

回答	人数	割合(%)
内容や都合が合えば参加したい	135	60.8
あまり参加したくない	46	20.7
全く参加したくない	26	11.7
ぜひ参加したい	15	6.8

【出典】今治市多文化共生に関する意識調査（多文化共生PT実施）  
 実施期間：令和8年1月  
 対象：今治市にお住まいの16歳以上の方  
 有効回答数：222件

## BARIバリューBOOKの導入・伝達方法（想定）

情報伝達手段の役割分担（防災・病院・ごみ・制度など）

紙（ガイドブック）

対話・交流のツール



- ・書き込める
- ・一緒につくる
- ・話すきっかけになる
- ・関係性が生まれる

目的：信頼・共感・相互理解

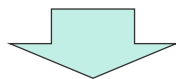
データ（アプリ）

確実な情報伝達

- ・多言語対応
- ・個別に届く
- ・即時性
- ・正確性



目的：到達・理解・利用



共生社会には、「正確に伝わる仕組み」と「関係を育てる余白」の両立が必要となるため  
導入方法としては、紙形式（ガイドブック）とデータ形式（アプリ）を想定